

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォーム  
文書バージョン: 4.1, Support Package 5 - 2014-11-17

## レポート変換ツールガイド



# 目次

<b>1</b>	<b>ドキュメント履歴.....</b>	<b>4</b>
<b>2</b>	<b>レポート変換ツール™の概要.....</b>	<b>5</b>
2.1	レポート変換ツール™とは.....	5
2.2	Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー.....	6
<b>3</b>	<b>レポート変換ツール™の作業モード.....</b>	<b>9</b>
3.1	レポート変換ツールの接続モード.....	9
3.1.1	直接入力 SQL レポート変換の処理.....	9
3.2	レポート変換ツール™のスタンドアロンモード.....	10
<b>4</b>	<b>レポート変換ツールの使用.....</b>	<b>11</b>
4.1	レポート変換ツール™のインストール.....	11
4.2	レポート変換ツール™のユーザ設定の編集.....	11
4.3	レポート変換ツールの起動.....	11
4.3.1	レポート変換ツール™を接続モードで起動する.....	11
4.3.2	レポート変換ツール™をスタンドアロンモードで起動する.....	12
4.4	レポートの選択.....	12
4.4.1	リポジトリを参照する.....	12
4.4.2	レポート変換ツール™を使用してレポートを検索する.....	13
4.4.3	変換用の個別レポートを選択する.....	13
4.4.4	変換用にレポートをフォルダ別を選択する.....	13
4.4.5	変換用にレポートをカテゴリ別を選択する.....	14
4.4.6	変換用にレポートの一覧を保存して開く.....	14
4.4.7	レポートを変換する.....	14
4.5	変換結果の参照および監査データベースの選択.....	16
4.5.1	監査接続を作成し、それをレポート変換ツール™に割り当てる.....	17
4.5.2	レポート変換ツールの監査レポートを表示する.....	17
4.6	変換済みレポートの公開.....	18
4.6.1	変換されたレポートを公開する.....	18
4.6.2	完全に変換されたレポートを比較する.....	18
4.7	Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換.....	20
4.8	ローカル (保護された) Desktop Intelligence ドキュメント.....	22
<b>5</b>	<b>Desktop Intelligence 機能の変換.....</b>	<b>24</b>
5.1	レポートの機能と変換のステータス.....	24
5.1.1	完全に変換されたレポート.....	24
5.1.2	部分的に変換されたレポート.....	24

5.1.3	変換されないレポート	25
5.2	機能の変換ステータスのカスタマイズ	25
5.2.1	初期化ファイルについて	25
5.2.2	初期化ファイルの編集	26
5.3	機能とその変換ステータス	26
5.4	レポート変換ツール™での式の変換	31
5.5	Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換	31
<b>6</b>	<b>Windows AD 認証用のレポート変換ツールの設定</b>	<b>34</b>

# 1 ドキュメント履歴

表 1:

バージョン	日付	変更
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1 サポートパッケージ 5	2014 年 10 月	<p>直接入力 SQL の処理方法については、<a href="#">直接入力 SQL レポート変換の処理 [9 ページ]</a>を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• <a href="#">レポート変換ツールの接続モード [9 ページ]</a>の注を追加</li><li>• <a href="#">レポートを変換する [14 ページ]</a>の注を追加</li></ul>

## 2 レポート変換ツール™の概要

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォーム 4.1™ で、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence(.rep) XI R2 および XI 3.x™ レポートを Web Intelligence(.wid)™ 4.1 形式に変換するには、レポート変換ツール™を使用します。

Desktop Intelligence™ レポートの変換を開始する前に、まず SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4.1™ クライアントツールをインストールおよび設定する必要があります。

Desktop Intelligence レポートを Web Intelligence レポートに変換する前に、アップグレード管理ツールを使用してレポートの依存関係 (フォルダ、オブジェクト、ユニバース、その他のアプリケーションオブジェクトなど) をターゲット CMS の場所に移行しておくことをお勧めします。これを行うことにより、変換後にレポートを最新表示できます。

### i 注記

アップグレード管理ツールを Desktop Intelligence レポートに使用しない場合、変換された (Web Intelligence) レポートを最新表示できない場合があります。

## 2.1 レポート変換ツール™とは

レポート変換ツール™により、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence XI R2 および XI 3.x™ レポートが Web Intelligence 4.1™ 形式に変換され、変換されたレポートが 4.1 CMS に公開されます。

一部の機能はレポートの変換を妨げることがあるため、レポート変換ツールでは Desktop Intelligence™ のすべての機能が変換されるとは限りません。変換のレベルは、元のレポートの機能によって変わります。一部の機能は、変換中に変更、再実装、または削除される場合があります。

このツールにより、3 つのステータスのうちいずれかが各レポートに割り当てられます。

- 完全に変換
- 一部のみ変換
- 未変換

レポート変換ツール™を使用して、変換されたレポートを監査することもできます。これにより、レポート変換ツール™で完全に変換できないレポートを識別でき、その理由を理解しやすくなります。

### i 注記

BI 4.1 SP1 CMS は Desktop Intelligence ドキュメントをホストすることができるため、レポート変換ツールで 4.1 を Desktop Intelligence ドキュメントのソース CMS にすることができます。以下は、ソース CMS システムおよびターゲット CMS システムのバージョンサポートマトリクスです。

ソース CMS バージョン	ターゲット CMS バージョン
XI R2	BI 4.1
XI 3.0 または XI 3.1	BI 4.1
BI 4.1	BI 4.1

ソース CMS バージョン	ターゲット CMS バージョン
BI 4.1	BI 4.1

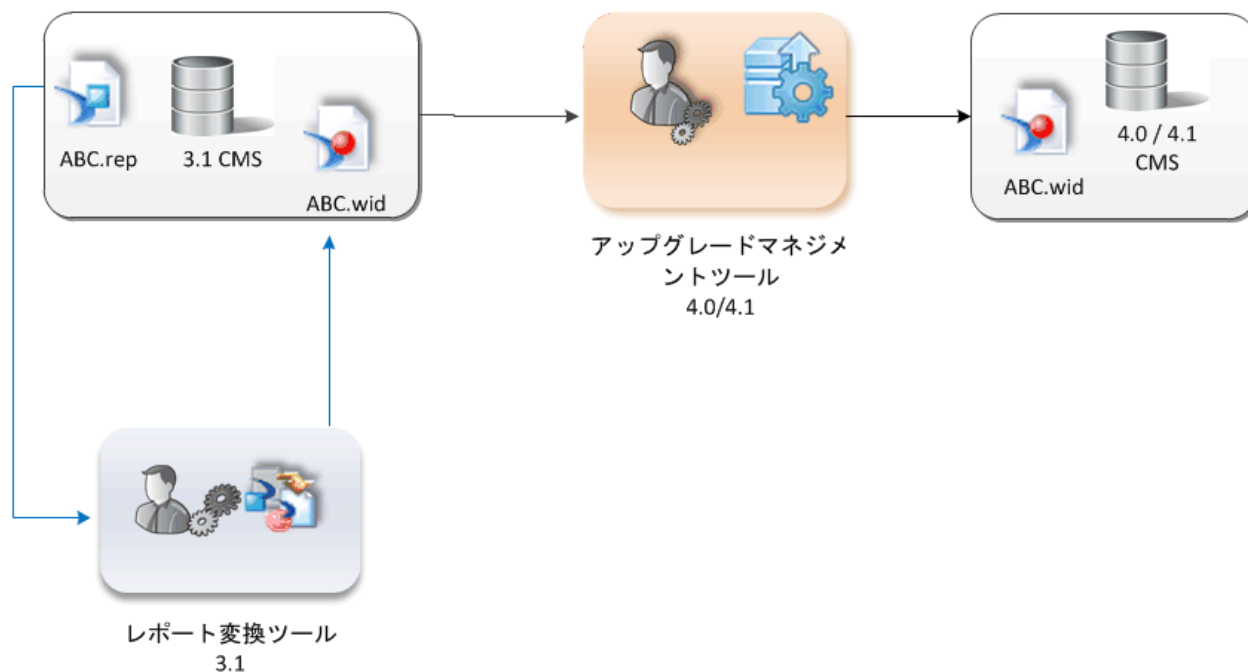
- ソース CMS が BI 4.1 バージョンのマシンの場合、ターゲットも同じシステムである必要があります。ターゲットの 4.1 CMS が別のマシンである場合、変換できません。
- BI 4.0 バージョンの CMS を変換のソース CMS にすることはできません。

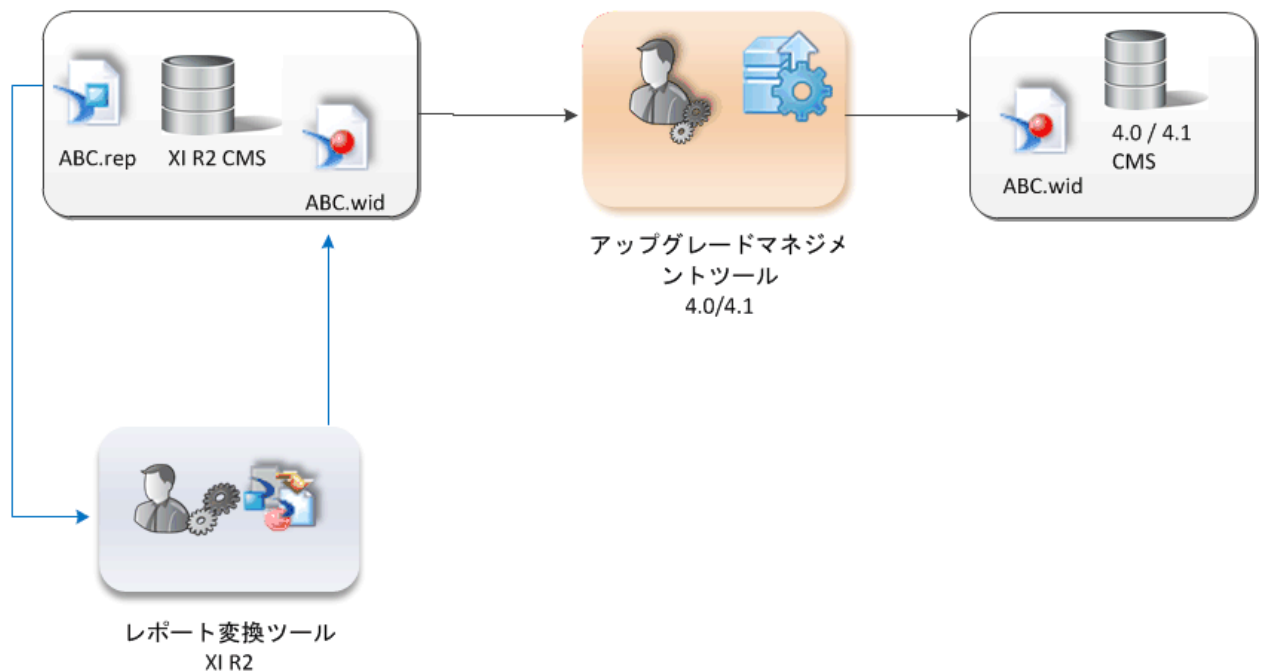
## 2.2 Desktop Intelligence から Web Intelligence への変換ワークフロー

この章では、ソースおよびターゲットの CMS システムのバージョンに基づいて適用できる、Desktop Intelligence レポートから Web Intelligence への変換パスについて説明します。

**1 つ目のパス** (下の最初の 2 つの図で示します)

1. XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、XI 3.x または XI R2 レポート変換ツールを使用して、同じスタックの Web Intelligence (.wid) に変換します。
2. 次に、アップグレード管理ツールを使用して Web Intelligence レポートをアップグレードし、BI 4.0 または BI 4.1 CMS に公開します。





## 2つ目のパス (下の図で示します)

XI 3.x または XI R2 CMS システムの Desktop Intelligence (.rep) レポートを、レポート変換ツール (4.0 または 4.1) を使用して Web Intelligence (.wid) に変換し、BI 4.0 または BI 4.1 CMS システム (ターゲット) に公開します。ソースレポートの依存関係はターゲットに移動しません。このパスでは、アップグレード管理ツールは使用しません。

### i 注記

管理者の個人用ドキュメントを XI R2 ソースから変換する場合は、変換前にアップグレード管理ツールを使用して、ユーザフォルダと個人用フォルダを移行しておくことをお勧めします。

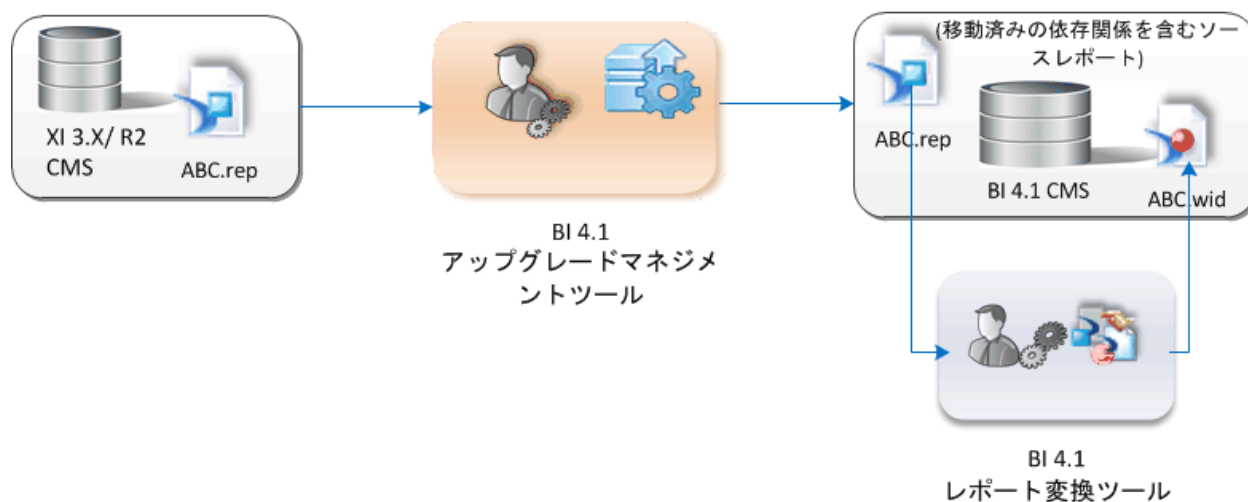


注: この変換シナリオでは、依存関係がアップグレード管理ツールを使用したターゲット CMS に統合されていないため、変換されたレポート (ABC.wid) を最新表示できません。

## 3つ目のパス (下の図で示します)

- 最初に、XI 3.x または XI R2 の Desktop Intelligence レポートとそれらの依存関係 (フォルダ、オブジェクト、ユニバー、接続など) を、4.1 アップグレード管理ツールを使用して BI 4.1 CMS に移行します。

2. 次に、4.1レポート変換ツールを使用して Desktop Intelligence レポート (.rep) を Web Intelligence (.wid) に変換し、4.1 CMS に公開します。



注: ソース Desktop Intelligence レポートは、BI 4.1 CMS システムに属することができます。上記の変換アプローチでは、Desktop Intelligence (ソース) および Web Intelligence (変換済み) レポートを同じターゲット CMS に持つことができるほか、Web Intelligence ではまだ使用できない Desktop Intelligence の機能を活用することができます。

#### i 注記

上の図にある BI 4.1 CMS および BI 4.1 ツールに適用されるすべての情報は、BI 4.1 にも同様に適用されます。



## 3 レポート変換ツール™の作業モード

レポート変換ツール™は、接続モードとスタンドアロンモードの2つのモードで作業できます。

### 3.1 レポート変換ツールの接続モード

接続モードでは、レポート変換ツール™はソース CMS (Desktop Intelligence ドキュメントがある場所) と出力先 CMS (Web Intelligence ドキュメントが公開される場所) に接続されます。

- ソース CMS に保存されている Desktop Intelligence™ ドキュメントを Web Intelligence™ 形式に変換できます。
- 変換されたドキュメントは、4.1 CMS に公開できます。
- 変換セッション中にユニバースを作成する必要がある場合、ユニバースは出力先 CMS 内に作成されます。

#### i 注記

1. Desktop Intelligence レポートをストアードプロシージャで作成した場合、レポート変換ツールにより、ストアードプロシージャを現在サポートしていない Web Intelligence として、ユニバースオンザフライが作成されます。
2. SQL 文の直接入力の場合、ユニバースを作成するにはレジストリ値 "FHSQL\_CreateUniverse" を 1 に設定します。

#### 接続モードのセキュリティ

接続モードで作業しているとき、ユーザー アカウントのセキュリティ権限は、CMS によって適用されます。

#### 3.1.1 直接入力 SQL レポート変換の処理

WEBI 直接入力 SQL (FHSQL) データプロバイダは、上級ユーザがリレーショナルユニバースを使用せず、RDBMS データベースに基づいて SQL スクリプトからドキュメントを直接構築できる機能です。この新機能が WEBI でサポートされているため、デフォルトではレポート変換ツールによってユニバースが作成されません。

直接入力 SQL で作成された Deskl ドキュメントの場合、ユニバースオンザフライの作成は下のレジストリパスにあるキー "FHSQL\_CreateUniverse" のレジストリ値に基づきます。

- 64 ビットのレジストリパス: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\SAP BusinessObjects\Suite XI 4.0\default\BusinessObjects\BusObj Configuration\BusinessReporter\RCT Conversion Mode
- 32 ビットのレジストリパス: HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\SAP BusinessObjects\Suite XI 4.0\default\BusinessObjects\BusObj Configuration\BusinessReporter\RCT Conversion Mode

説明

キー "FHSQL\_CreateUniverse" がレジストリに存在しないか、キー "FHSQL\_CreateUniverse" がレジストリに存在し、その値が 0 に設定されている場合、派生テーブルを含む UNV ユニバースオンザフライが作成されることなく、レポート変換ツールによって DeskI 直接入力 SQL が WEBI 直接入力 SQL に直接変換されます。レジストリキー "FHSQL\_CreateUniverse" がレジストリに存在し、その値が 1 に設定されている場合、派生テーブルを含む UNV ユニバースオンザフライの作成時に、レポート変換ツールによって DeskI 直接入力 SQL が WEBI ドキュメントに変換されます。デフォルトでは、キー "FHSQL\_CreateUniverse" のレジストリ値は 0 に設定されています。

## 3.2 レポート変換ツール™ のスタンドアロンモード

スタンドアロン モードでは、レポート変換ツール™ は CMS に接続されないため、セキュリティは設定されません。作業は、ローカルの保護されていないドキュメントとユニバースに対してのみ可能です。ローカルとは、コンピュータのハードディスクに保存されているということです。ネットワークサーバは含まれません。

スタンドアロン モードでは、ドキュメントを CMS にインポートしたり、ドキュメントを CMS からエクスポートすることはできません。

ローカルの保護されていないユニバースを使用して、ローカルの保護されていないドキュメントを作成したり最新表示したりするために必要なミドルウェアを、レポート変換ツール™ と共にコンピュータにインストールする必要があります。

Desktop Intelligence ドキュメントを Web Intelligence に変換できます。以前のバージョンの Desktop Intelligence XI R2、3.0 または 3.1 で作成されたドキュメントは、使用するユニバースがローカルの 4.1、サポートパッケージ 4.1 ユニバースフォルダ (C:\Users\<ユーザ名>\AppData\Roaming\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\Universes) にコピーされ、保護されていない (すべてのユーザ用に保存されている) 場合、Web Intelligence 4.0 に変換することができます。

スタンドアロンモードで、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを使用しているドキュメントは、Web Intelligence 4.0 に変換できません。

### i 注記

監査ログを作成する場合、または "SQL 文の直接入力" および "ストアードプロシージャ" レポートを検出する場合は、Universe Designer をインストールする必要があります。

## スタンドアロンモードを使用する場合

スタンドアロン モードは、CMS のセキュリティや CMS 接続を使わずに作業する場合に使用します。これを利用すると、ローカルに保存されている保護されていない任意の数のドキュメントを CMS のパフォーマンスに影響を与えずに 1 つの操作で変換できます。

## 4 レポート変換ツールの使用

### 4.1 レポート変換ツール™のインストール

レポート変換ツール™は、Microsoft Windows プラットフォームで実行されます。これは、SAP BusinessObjects 4.1™のクライアントのインストールを実行するときに、デフォルトでインストールされます。カスタムインストールを実行する場合は、これをインストールするためにレポート変換ツール™を選択する必要があります。

#### i 注記

監査ログを作成する場合、または SQL 文の直接入力およびストアドプロシージャレポートを検出する場合は、デザイナ™をインストールする必要があります。

### 4.2 レポート変換ツール™のユーザ設定の編集

デフォルトでは、Administrators グループまたはレポート変換ツールユーザ™グループにレポート変換ツールを使用するためのアクセス権があります。

▶ SAP Business Objects Enterprise アプリケーション ▶ レポート変換ツール ▶ セクションでセントラル管理コンソール™を使用してユーザのアクセス権を編集できます。

### 4.3 レポート変換ツールの起動

レポート変換ツール™は、次のいずれかの作業モードで起動できます。

- 接続
- スタンドアロン

#### 4.3.1 レポート変換ツール™を接続モードで起動する

接続モードでは、セキュリティは CMS によって処理されます。

レポート変換ツール™を接続モードで起動する場合、CMS とクライアント/サーバ接続されます。

1. ▶ スタート ▶ プログラム ▶ SAP BusinessObjects Business Intelligence ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 クライアントツール ▶ レポート変換ツール ▶ の順にクリックします。  
レポート変換ツール™のログインページが開きます。

2. **[ソース]** フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、**[システム]** リストからソース CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
3. **[出力先]** フィールドで、有効なユーザ名とパスワードを入力し、**[システム]** リストから出力先 CMS を選択して、Enterprise 認証モードを選択します。
4. レポート変換ツールの™ インターフェイス言語を変更する場合は、**[使用可能な言語]** をクリックして言語を選択します。
5. **[ログイン]** をクリックします。

レポート変換ツール™ が接続モードで起動します。

#### 注記

ソース CMS が BI 4.1 システムの場合、同様に、ターゲットも同じ **[4.1 CMS]** である必要があります。ターゲットの 4.1 CMS が別のマシンである場合、変換できません。

## 4.3.2 レポート変換ツール™ をスタンドアロン モードで起動する

スタンドアロン モードでは、CMS で保護されたドキュメントまたはユニバースを処理できません。

ユニバースを処理するには、ユニバースが C:\Documents and Settings\<ユーザ名>\Application Data\SAP Business Objects\SAP Business Objects 4.0\Universes にある必要があります。マップされたネットワークドライブは、スタンドアロンモードで使用できます。

1. **▶ スタート ▶ プログラム ▶ SAP BusinessObjects Business Intelligence ▶ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4 クライアントツール ▶ レポート変換ツール ▶** の順にクリックします。
2. **[認証]** リストから **[スタンドアロン]** を選択します。  
**[システム]**、**[ユーザ名]**、**[パスワード]** の各フィールドは無効になっています。
3. レポート変換ツールの™ インターフェイス言語を変更する場合は、**[使用可能な言語]** をクリックして言語を選択します。
4. **[ログイン]** をクリックします。

レポート変換ツール™ がスタンドアロン モードで起動します。

## 4.4 レポートの選択

レポート変換ツール™ ウィザードの最初の画面を使用して、変換するレポートを選択します。接続モードでは、左の枠に CMS リポジトリがツリー形式で表示されます。このリポジトリからレポートを選択し、それらのレポートを右側にある変換対象の一覧に移動します。

レポートを参照する場合は、フォルダまたはカテゴリ別に表示することができます。

### 4.4.1 リポジトリを参照する

リポジトリを参照するには、次の手順に従ってください。

1. **[フォルダ]** をクリックしフォルダ別にリポジトリを表示するか、**[カテゴリ]** をクリックしカテゴリ別にリポジトリを表示します。
2. フォルダまたはカテゴリのプロパティを表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから **[プロパティ]** をクリックします。
3. フォルダまたはカテゴリの内容を最新表示するには、フォルダまたはカテゴリを右クリックしてから **[最新表示]** をクリックします。
4. 変換されていないレポートのみを表示するには、画面の下部にある **[変換されていないドキュメントのみを表示]** を選択します。

## 関連情報

[レポート変換のステータスアイコン](#) [15 ページ]

### 4.4.2 レポート変換ツール™を使用してレポートを検索する

変換するレポートの名前がわかる場合は、次の手順を実行して検索します。

1. フォルダまたはカテゴリの一覧の下にある検索ボックスにレポートの名前を入力します。
2. 検索ボックスの右側にある **[検索]** アイコンをクリックします。  
特定のレポート名を検索することもできます。"Sales2" を検索した場合、"Sales2006" や "Sales 2007" など、"Sales2" から始まる名前のレポートがすべて検索されます。  
レポート変換ツール™では、検索項目に一致するレポートが強調表示されます。

### 4.4.3 変換用の個別レポートを選択する

1. レポート変換ツール™ウィザードの **[レポート選択]** 画面で、左の枠からレポートを選択して **[>>]** をクリックするか、レポートを右クリックして **[ドキュメントをバッチ一覧に追加]** をクリックして、レポートを変換対象レポートの一覧にコピーします。

### 4.4.4 変換用にレポートをフォルダ別を選択する

1. **[フォルダ]** をクリックし、フォルダ別にレポートを表示します。
2. 変換するレポートのあるフォルダを右クリックします。
3. フォルダ内のすべてのドキュメント、または、フォルダとそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを選択します。
  - フォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、**[フォルダのみ選択]** をクリックします。
  - フォルダおよびそのサブフォルダ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、**[フォルダとサブフォルダを選択]** をクリックします。

## 4.4.5 変換用にレポートをカテゴリ別に選択する

1. [\[カテゴリ\]](#) をクリックし、カテゴリ別にレポジトリを表示します。
2. 変換するレポートのあるカテゴリを右クリックします。
3. カテゴリ内のすべてのドキュメント、または、カテゴリとそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを選択します。
  - カテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[\[カテゴリのみ選択\]](#) をクリックします。
  - カテゴリおよびそのサブカテゴリ内のすべてのドキュメントを変換対象レポートの一覧に追加する場合は、[\[カテゴリとサブカテゴリを選択\]](#) をクリックします。

## 4.4.6 変換用にレポートの一覧を保存して開く

変換対象レポートの一覧を保存するには、まずレポート変換ツール™ を起動して、1 つ以上のレポートを変換対象ファイルの一覧に移動する必要があります。

変換対象として選択したレポートの一覧をファイル(XML 形式)に保存し、後からこのファイルを開いて一覧を設定できます。

1. 変換用ファイルの一覧にレポートが 1 つ以上存在する状態で、[\[一覧を保存\]](#) をクリックします。
2. [\[保存\]](#) ダイアログボックスに作成する一覧の名前を入力し、[\[OK\]](#) をクリックします。
3. 後で一覧を開くには、ウィザードの [\[レポートの選択と変換\]](#) 画面で、[\[リストを開く\]](#) をクリックします。
4. 開いて検証するファイルを選択します。  
ファイル内のドキュメントが、変換用ドキュメントの一覧に表示されます。

## 4.4.7 レポートを変換する

レポート変換ツール™ ウィザードの [\[レポートの選択\]](#) 画面では、変換対象レポートの一覧が配置されています。

1. レポートのデータをテキスト形式に変換するには、[\[すべてのセル内容をテキストとして読み込む\]](#) を選択します。  
レポート変換ツール™ によってデータがテキスト形式に変換されます。このチェックボックスは、デフォルトで選択されています。このオプションの選択を解除した場合、データはハイパーリンクに変換されます。
2. 変換対象レポートの一覧に SQL 文を含むレポートが 1 つ以上含まれている場合、[\[SQL 文の直接入力とストアードプロシージャを含むドキュメントを変換します\]](#) を選択します。  
レポート変換ツール™ は、SQL 文のあるレポートを含むすべてのレポートを変換します。このオプションを選択しない場合、SQL 文のあるドキュメントは変換されません。

### i 注記

SQL 文の直接入力の場合、ユニバースを作成するにはレジストリ値 "FHSQL\_CreateUniverse" を 1 に設定します。

3. [次へ](#) をクリックします。

ドキュメントが変換されている間は、[\[変換中\]](#) 画面が表示されます。この画面には、変換中のすべてのドキュメントとその変換ステータスが一覧表示されます。

### 4.4.7.1 レポート変換のステータスアイコン

レポート変換ツール™ ウィザードの [レポートの選択] および [変換中] 画面には、レポートの変換ステータスがアイコンで示されます。

アイコン	ステータス	説明
	完全に変換	レポート構造および形式は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ と Web Intelligence™ で同じです。  <b>i 注記</b> 変換されたレポートの構造は元のレポート構造と同じですが、Web Intelligence™ 計算エンジンはこの構造を常に SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ 計算エンジンと同じ方法で解釈するわけではないので、特定の環境では、そのレポートが異なる値を返す場合があります。
	一部のみ変換	一部のレポート機能が Web Intelligence™ に変換されました。変換されていない機能もあります。
	未変換	Web Intelligence に相当するものがない重要な機能が含まれるので、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートは変換されませんでした。

### 4.4.7.2 レポート変換の制限

#### SQL 文の直接入力とストアードプロシージャを含むレポート変換時の制限

レポート変換ツールを使用すると、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含む SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートを変換できます。ただし、次の制限があります。

- ローカルマシンにデザイナー™をインストールする必要があります。
- レポート変換ツール™では、CMS に保存されたデータベースへの保護された接続を使用する必要があるため、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャを含むレポートの変換は接続モードでのみ実行できます。
- ストアードプロシージャは、SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャと同じ名前のユニバースに変換されます。
- ユニバースは、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに使用したのと同じ接続を使用します。
- パラメータプロンプトを必要とするストアードプロシージャの場合、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートの設定方法に応じて、生成されたユニバースで次のいずれかの方法により処理されます。



SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートで SQL 文の直接入力またはストアードプロシージャに送信されるように設定されたものと同じパラメータを設定する。  
Web Intelligence™ レポートの最新表示時にプロンプトを表示する。

#### **i** 注記

SQL 文の直接入力の場合、ユニバースを作成するにはレジストリ値 "FHSQL\_CreateUniverse" を 1 に設定します。

## 複数のコンテキストを含むレポート変換時の制限

レポート変換ツールを使用すると、複数のコンテキストを含む SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートを変換できます。ただし、次の制限があります。

Desktop Intelligence ドキュメントに複数のコンテキストが含まれ、1 つのコンテキストが選択されている場合、変換ではコンテキストの選択は保持されません。後で、変換後の Web Intelligence ドキュメントで必要なコンテキストを選択する必要があります (最新表示時)。

## 4.5 変換結果の参照および監査データベースの選択

レポート変換ツール™ を起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換すると、[\[変換セッションの監査\]](#) 画面が表示されます。

この画面には、変換されたレポートが変換ステータス (完全に変換、一部のみ変換、未変換) 別に表示されます。各カテゴリにある変換されたレポートの割合が表示されます。

また、この画面を使用して、レポート変換ツール™ が変換の詳細を書き込む監査データベース接続を選択して、完全に変換されていないレポートがある場合に、その理由を分析することもできます。それには、まずデザイナー™ で監査データベース接続を作成し、CMS を介してそれをレポート変換ツール™ に割り当てる必要があります。既存のデフォルトの接続 [\[Conversion Audit Connection\]](#) を使用することもできます。

#### **i** 注記

正しい接続パラメータを使用してデフォルトの接続を編集し、その接続でレポートが正常に実行されることをテストしてください。

[\[Report conversion Tool audit statistics report\]](#) は、[\[Conversion Audit Connection\]](#) にリンクされる [\[Report Conversion Tool audit universe\]](#) を使用して作成されます。[\[Report Conversion Tool audit statistics report\]](#) は、デフォルトのレポートですが、独自のレポートも作成できます。

#### **i** 注記

デフォルトの接続を選択しない場合、選択した接続が [\[Report Conversion Tool audit universe\]](#) にリンクされていることを確認する必要があります。



## 関連情報

[レポート変換のステータスアイコン](#) [15 ページ]

### 4.5.1 監査接続を作成し、それをレポート変換ツール™に割り当てる

変換したレポートを公開する前に、レポート変換ツール™を使用して、変換結果を選択した監査データベースに書き込むことができます。一部のレポートが完全に変換されていない場合は、このデータを使用して理由を分析できます。監査データベースを使用するには、まずデザイナー™で接続を作成して、それをレポート変換ツール™に割り当てる必要があります。

1. SAP BusinessObjects Universe Designer™ を起動して、ログインします。
2. **ツール** > **接続** を選択します。
3. **[追加]** をクリックします。
4. 新規接続ウィザードの手順に従って接続を作成します。詳しくは、*Designer* ガイドを参照してください。  
レポート変換ツール™の監査は、Oracle、SQL Server、DB2、Sybase、mysql の各データベースのみをサポートしています。RDBMS での監査の使用は保証されません。
5. CMC にログインし、**アプリケーション** > **レポート変換ツール** > **プロパティ** をクリックして、監査に使用する接続を選択し、**[更新]** をクリックします。
6. レポート変換ツール™の **[監査データベースに変換結果を保存する]** 画面で、**[監査設定]** の下にある **[監査データベースに変換結果を保存する]** オプションを選択し、一覧から監査接続を選択します。

作成した接続が一覧に表示されない場合は、**[最新表示]** をクリックします。

テーブルにデータを追加する方法を選択することもできます。

オプション	説明
新しい行を挿入する前に既存の監査テーブルの行を削除する	現在の変換を監査する前に、監査テーブルの既存のデータをクリアする場合は、これを選択します。以前に監査テーブルに書き込んだ行だけが削除されます。その他のユーザが書き込んだ行は、テーブルに残ったままになります。
新しい行を監査テーブルに追加する	現在の変換データを既存の監査データに追加する場合は、これを選択します。

最後に、テーブルの各行にコメントを追加できます。

変換結果は、この監査データベースに書き込まれ、後で分析に使用できます。

### 4.5.2 レポート変換ツールの監査レポートを表示する

レポート変換ツール™の監査データベース接続と変換されたレポートを選択しています。**レポート変換ツールの [公開する変換ドキュメントを選択します]** 画面が表示されています。

1. **[監査レポートを開く]** をクリックします。  
Report Conversion Tool audit statistics report の場所は、Public folder\Report conversion tool \Report conversion tool documents\Report Conversion Tool audit document\ です。

2. 表示されたログインページで、BI プラットフォーム接続の認証情報を入力します。

監査レポートが表示されます。

## 4.6 変換済みレポートの公開

レポート変換ツール™を起動し、ウィザードの手順に従いレポートを選択および変換して、変換結果を表示すると、[レポートの公開] 画面が表示されます。

[レポートの公開] 画面からは、変換結果を参照できます。

ウィザードの手順で、変換されたレポートの全体および一部を公開できます。公開する前に BI ラウンチパッド™でレポートを表示できます。

### 4.6.1 変換されたレポートを公開する

これまで、レポートを選択および変換し、変換結果を参照しました。そして、レポート変換ツール™の [レポートの公開] 画面が表示されています。

1. オプションで、変換されたレポートの監査レポートを表示するには、監査データの保存を選択している場合は、[変換結果] の一覧の下にある [監査レポートを開く] をクリックします。
2. 行の左にあるチェックボックスをオンにして、公開するレポートを選択します。このチェックボックスはデフォルトでオンになっていますが、これをオフにすると、レポートは公開されません。
3. レポートの行を選択してから右クリックして、ターゲット名、ターゲットフォルダ、ターゲットカテゴリなど、公開の詳細を変更します。

デフォルトでは、ターゲット名にはソース レポート名がつけられます。ターゲット名は変更できます。

4. [次へ] をクリックして、レポートを公開します。

変換されたレポートが公開されます。パブリケーションが完了すると、[公開が完了しました] 画面が表示されます。この画面には、ファイルの名前とそのパブリケーションステータスが一覧表示されます。ウィンドウの下部には、各ステータスのレポート数を示すステータスアイコンが表示されます。ステータスには次のものが含まれます。

- 公開が完了しました: レポートは完全に公開されています。
- 一部のみ公開: レポートにリンクされている出力先マシンにあるユニバースが使用できないため、レポートの一部だけが公開されています。
- 未公開: 出力先マシンにあるレポートが公開されていて、その既存のレポートを置き換えない場合、レポートは公開されません。
- 公開に失敗しました: レポートは公開できませんでした。

### 4.6.2 完全に変換されたレポートを比較する




1 つ以上のレポートを Desktop Intelligence から Web Intelligence 形式に変換しました。レポート変換ツール™の [変換の監査] 画面が表示されています。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence™ レポートと変換後の Web Intelligence™ レポートは、計算エンジンの違いによりデータが異なる場合があります。レポート変換ツール™ から、レポート比較ツール™ の Delta Viewer を呼び出し、元のレポートと変換されたレポート(完全に変換されたレポートのみ)を比較して、違いがある場合はその違いを確認できます。

1. レポート変換ツールの [監査データベースに変換結果を保存する] 画面で、[完全に変換されたドキュメントの比較] オプションを選択します。
2. 必要に応じて監査設定を設定します。
3. [次へ] をクリックします。
4. 変換元のドキュメントと変換されたドキュメントの比較が完了したら、[比較] ボックスの [OK] をクリックします。  
公開する変換ドキュメントの選択画面で、[違いを表示] ボタンを使用するとドキュメント間のデータの差分が表示されます。
5. [違いを表示] ボタンをクリックし、レポート比較ツールのデルタビューアを開きます。

#### 4.6.2.1 完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスのアイコン

次の表に、完全に変換されたドキュメントのレポート比較ステータスを表すアイコンを示します。

アイコン	ステータス	説明
	同一	レポートは同一です。
	更新	レポートは完全に変換されています。ただし、計算の差異のために、変換されたレポートはソースレポートと異なります。
	手動チェックが必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>• チャート/グラフィックを手動でチェックする必要があります。</li> <li>• 「移行元ではレポート出力は生成できませんでした」などのエラーのために、レポートは完全に比較されていません。</li> </ul>

#### 4.6.2.2 レポート比較ツール

##### 4.6.2.2.1 Delta Viewer

[Delta Viewer] は、比較ツールの主要なダイアログボックスです。比較結果の詳細を表示することができます。

[Delta Viewer] では、レポート出力比較 (.roc) ファイルを表示、保存、分析します。

[Delta Viewer] では、次のカラーコードを使用して、2 つのドキュメント間の違いを示します。

- 更新された項目は緑で表示
- 除外された項目は赤で表示

- 挿入された項目は青で表示
- 同一の項目は黒で表示

.roc ファイルを開いた場合、または新しい比較処理の完了後に [Delta Viewer] を開くことができます。

#### 4.6.2.2.1.1 [Delta Viewer] を使用して結果を分析する

[Delta Viewer] ダイアログボックスに 2 つのドキュメントの比較の詳細が表示されます。

レポート比較ツールのオプションメニューは次のとおりです。

- Tree Panel
- Block Panel
- Slice and Dice Panel

Delta Viewer は次のビューをサポートしています。

- Merged view - 比較元システムレポートと比較先システムレポートの結合と表示ができます。
- Source view - 比較元システムレポートを表示できます。
- Target view - 比較先システムレポートを表示できます。
- Split view - 比較元システムと比較先システムの両方の分割レポートが表示できます。

*Report Panel* でレポート要素を選択すると、結果が *Block Panel* と *Slice and Dice Panel* (レポート要素がテーブルの場合) に表示されます。

1. [View] メニューから [Split view] オプションを選択します。  
比較元のドキュメントと比較先のドキュメントのレポート要素の説明が同じタブに表示されます。
2. [Report Panel] でレポート要素を選択します。  
レポート要素の詳細な情報が *Block Panel* に表示されます。緑、青、または赤のテキストは、移行中に変更が加えられたことを意味します。テーブル構造が *Slice and Dice Panel* に表示されます。

## 4.7 Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換

Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールすると、このドキュメントのインスタンスはドキュメント履歴の一部になります。ドキュメントを Web Intelligence に変換すると同時に、そのドキュメントのインスタンスを Desktop Intelligence 形式から Web Intelligence に変換することがあります。

ドキュメントインスタンスを変換するには、次の手順を実行します。

1. レポート変換ツールを接続モードで起動します。
2. [レポート変換ツール] ウィンドウのファイルエクスプローラビュー (左側のペイン) で、変換する個々のレポートを選択し、[>>] ボタンを選択することで、選択したレポートを右側のペインに移動します。

### i 注記

右側のペインの [インスタンス] 列に、変換するために選択した Desktop Intelligence ドキュメントそれぞれで利用できるインスタンスの数が表示されます。

3. 右側のペインでドキュメントを選択して、[インスタンスの変換] を選択します。

### i 注記

[インスタンスの変換] ボタンは、選択した Desktop Intelligence ドキュメントに利用できるインスタンスがある場合にのみ有効になります。デフォルトでは、このボタンは無効です。

[ドキュメントインスタンスの変換] ウィンドウに、ドキュメントのすべてのインスタンスが、名前、オーナー、タイムスタンプの値とともに表示されます。

4. 変換するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスを変換する場合は、最後のテーブル列の上部にあるチェックボックスを使用して、すべてを選択します。  
変換結果に部分的に変換されたインスタンスを含める場合は、[親が一部変換されている場合に変換を続行] チェックボックスをオンにします。
5. [OK] を選択します。[レポート変換ツール] のメインビューに戻ります。[次へ] を選択します。  
変換処理が開始され、変換が完了すると [変換が完了しました] ウィンドウが表示されます。ドキュメントとそのインスタンスの変換ステータスは、この画面で確認できます。

### i 注記

[インスタンス] 列では、変換されたドキュメントの行には [いいえ]、変換されたインスタンスには [はい] と表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

6. [閉じる] を選択して、タスクを続行します。  
画面に、Desktop Intelligence (ソース) ドキュメントと Web Intelligence (ターゲット) ドキュメントの比較、および変換結果の監査データベースへの保存のためのオプションが表示されます。

### i 注記

レポート変換ツールでは、インスタンス名とソースインスタンスの作成時間を付加して、変換されたインスタンス (Web Intelligence 形式) の名前が生成されます。

7. ソースとターゲットのドキュメントまたはインスタンスを比較する場合は、関連するオプションを選択するか、[次へ] を選択します。  
画面に、変換したレポートやインスタンスを BI 4.1 CMS の公開先に公開するためのオプションが表示されます (デフォルトでは、デフォルトのプロパティとともに、ターゲットに公開するようすべてのレポートが選択されています)。
8. 要件に基づいて、次のいずれかを実行します。

ターゲット (Web Intelligence) のドキュメントまたはインスタンスの名前を変更するには、[ターゲット名] 列の値を右クリックして、[名前の変更] を選択し、新しい名前を指定します。

ドキュメントの公開先を変更するには、[ターゲットフォルダ] 列に表示されているフォルダを右クリックして、[フォルダの変更...] を選択します。

Web Intelligence ドキュメントとともに公開先に公開する、Desktop Intelligence 以外のソースドキュメント (.pdf、.xls、.rtf など) を指定するには、[公開する .rep ではないインスタンスを選択] を選択します。表示されるウィンドウで、公開する非 Desktop Intelligence インスタンスを選択して、[OK] を選択します。

#### i 注記

変換したインスタンスを公開するターゲットフォルダを変更するオプションは、ドキュメントに対してのみ画面に表示されます。インスタンスには表示されません。これは、インスタンスはドキュメント履歴の一部として存在し、ドキュメントそのものと同じフォルダに置かれるからです。インスタンスには、ドキュメントそのものの以外の場所は設定できません。

#### 9. 画面の [次へ >] を選択します。

ターゲットドキュメントとそのインスタンスの [公開のステータス] (部分的に変換/完全に変換/未変換) が画面に表示されます。

#### i 注記

[インスタンス] というタイトルのテーブル列では、ドキュメントを含む行には [いいえ]、インスタンスを含む行には [はい] が表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

#### 10. [閉じる] を選択します。

変換が完了し、変換結果の概要が画面に表示されます。[終了] を選択してツールを終了するか、[初めに戻る] を選択 (他のドキュメントやインスタンスを変換する場合) します。

SAP BusinessObjects InfoView では、ターゲットフォルダ (手順 8 で指定) にアクセスして、変換されたドキュメントの [履歴] を開いて、変換されたインスタンスを表示できます。

## 4.8 ローカル (保護された) Desktop Intelligence ドキュメント

3-tier または ZABO モードのみで Desktop Intelligence を使用する場合は、保護されているパーソナライズされた多くのレポートをシステムでローカルに使用することができます。これまでは、これらのドキュメントを Web Intelligence に変換するには CMS にエクスポートする必要がありました。

ソースドキュメントを CMS にエクスポートしなくてもレポート変換ツールを使用して、これらの保護されているパーソナライズされたローカル (.rep) ドキュメントを Web Intelligence (.wid) に変換できるようになりました。

**重要事項:** 変換するためにローカル (保護された) Desktop Intelligence ドキュメントを選択した場合、変換先の Web Intelligence ドキュメントではソース Desktop Intelligence ドキュメントのセキュリティは維持されません。セキュリティは、CMS に置かれた Desktop Intelligence ドキュメントを変換した場合にのみ維持されます。

ローカル (.rep) ドキュメントを Web Intelligence に変換するには、以下の手順を実行します。

1. 接続済みモードで Enterprise 認証 (または他のいずれかの認証) を使用してレポート変換ツールを起動します。
2. [レポート変換ツール] 画面で、[ローカルドキュメント] を選択します。

左のパネルにシステムのローカルドライブが表示されます。

#### i 注記

[CMS から] のドキュメントまたは [ローカルドキュメント] のどちらかを選択します。どちらかを選択すると、もう一方は無効になります。CMS ドキュメントとローカルドキュメントの両方を同時に変換するために選択することはできません。

3. 変換するローカル .rep ドキュメントが含まれるドライブを展開し、必要なドキュメントを選択して、[>>] を選択して右側の [選択したドキュメント] リストに追加します。
4. [次へ] を選択します。

変換処理が開始され、[変換] ウィンドウが表示されます。

5. 変換が完了すると、[変換が完了しました] ウィンドウに変換結果が表示されます。[閉じる] を選択して、ウィンドウを終了します。  
[レポートの上書き保存] ビューが表示されます。
6. [レポートの上書き保存] ビューには、ソースレポートと変換済みレポートのソース属性とターゲット属性 (名前とフォルダの場所) が表示されます。
  - 変換済みレポートの [ターゲット名] を (公開するために) 変更するには、ターゲット名の現在の値を右クリックして、[名前の変更] を選択します。
  - 変換済みレポートの [ターゲットフォルダ] を (公開するために) 変更するには、ターゲットフォルダの場所の値を右クリックして、[フォルダの変更] を選択します。

#### i 注記

変換結果 (変換済みレポートと各レポートのステータス値) を監査データベースに保存するには、[レポートの上書き保存] 画面の左下に表示されている [ファイルに変換結果を保存する] チェックボックスをオンにします。デフォルトのログフォルダパス (CSV ファイル名を含む) が隣のテキストボックスに表示されます。ログフォルダに CSV ファイルがすでに存在する場合は、デフォルトでは、ツールによって現在の変換結果がこのファイルに追加されます。現在の結果で既存の CSV ファイルの内容を上書きする場合は、[上書き] を選択します。

7. [次へ] を選択します。  
変換済みの (.wid) ファイルが、指定したターゲットフォルダに保存されます。
8. [閉じる] を選択して、ウィンドウを終了します。  
[変換が完了しました] 画面に変換結果が表示されます。[終了] をクリックしてレポート変換ツールを終了するか、[初めに戻る] を選択してツールの最初のページに戻ります。



## 5 Desktop Intelligence 機能の変換

### 5.1 レポートの機能と変換のステータス

変換されたレポートと元の Desktop Intelligence レポートの類似レベルは、元のレポートの機能によって異なります。レポート変換ツールでは、Desktop Intelligence のすべての機能を Web Intelligence に変換できるわけではありません。Desktop Intelligence の機能の中には、Web Intelligence でサポートされないものもあります。レポート変換ツールでは、元のレポートの機能に応じて、レポートに [完全に変換]、[部分的に変換]、または [未変換] のマークを付けます。

元のレポートの各機能には独自に関連付けられた変換ステータスがあり、最も重大なものは変換の全体的なステータスを生成します。たとえば、元のレポートに変換できない機能が含まれているために、[部分的に変換] ステータスが生成されると、レポート全体が部分的に変換されているとみなされ、その機能は Web Intelligence レポートに示されません。

元のレポートに特定の機能があると、レポート変換ツールで Web Intelligence レポートが生成されない場合があります。この場合、変換ステータスは [未変換] になります。

#### 5.1.1 完全に変換されたレポート

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には全く同じ、またはほぼ同じですが、変換中に一部のマイナー機能やプロパティが失われる場合があります。

##### i 注記

完全に変換されたレポートは元のレポートと構造的には同じですが、特定の状況で変換されると異なる数値を返す場合があります。これは、Web Intelligence 計算エンジンによる構造の解釈が異なるためです。

Web Intelligence で本来サポートされない機能でも、レポート変換ツールによって Web Intelligence レポートに再実装されるものがあります。たとえば、ツールによって、Desktop Intelligence の `countall()` 関数が、ALL パラメータ付きの `count()` 関数に置換されます。

再実装された機能は Web Intelligence で同様に動作しますが、[完全に変換] ステータスには影響しません。

#### 5.1.2 部分的に変換されたレポート

元の Desktop Intelligence レポートの特定の機能は、デフォルトのステータスである [部分的に変換] を生成します。レポートに、[部分的に変換] ステータスを使用する機能が 1 つ以上含まれる場合、レポート全体にも [部分的に変換] のフラグが設定されます。

この動作は、レポート変換ツールの初期化ファイルを編集して変更できます。これは、デフォルトで [部分的に変換] のステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、その機能の変換が重要ではない場合に使用すると便利です。この場合、初期化ファイルを編集して、その関連のステータスを [完全に変換] に設定できます。



## 5.1.3 変換されないレポート

Desktop Intelligence レポートに、変換できない重要な機能が含まれている場合、レポートは変換されません。たとえば、ユニバース以外のデータプロバイダや SQL 文の直接入力があるレポートに含れている場合、そのレポートは変換できません。

## 5.2 機能の変換ステータスのカスタマイズ

レポート変換ツールには XML 形式の初期化ファイルがあり、このファイルを使用して一部のレポート機能で生成されるステータスを決定できます。これらの機能には、[完全に変換] または [部分的に変換] のフラグを設定できます。

初期化ファイルでは、ニーズに合わせて変換プロセスをカスタマイズできます。変換中に [部分的に変換] ステータスを生成する機能を含むレポートが多数あっても、この機能の変換が重要でない場合は、初期化ファイルを編集して、この機能で [完全に変換] のステータスが生成されるようにします。

### i 注記

初期化ファイルでは、すべてのレポート機能で生成されるステータスを制御できるわけではありません。一部の機能について、レポート変換ツールにより、初期化ファイルの設定ではなくハードコーディングされた変換ステータスが生成される場合は、初期化ファイルを使用してそのステータスを変更することはできません。

## 関連情報

[機能とその変換ステータス](#) [26 ページ]

### 5.2.1 初期化ファイルについて

初期化ファイルは、errorlogsettings.xml という名前で \$INSTALLDIR/win32\_x86 フォルダに保存されています。ファイルは次のような形式になります。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<!-- FILTER -->
<ERROR TYPE="Filter/FilterFormula"/>
<!-- BREAK -->
<ERROR TYPE="Breaks/ValueBasedBreaks"/>
<!-- DRILL -->
<ERROR TYPE="Drill/QueryDrill"/>
<ERROR TYPE="Drill/MissingRef"/>
<!-- GRAPH -->
<ERROR TYPE="Graph/3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/PieChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/ElementPosition"/>
<ERROR TYPE="Graph/Pie3DChart"/>
<ERROR TYPE="Graph/General"/>
</ERRORLOGS>
```

```
<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED">
<!-- QUERY -->
<ERROR TYPE="Query/Query"/>
<ERROR TYPE="Query/Keyword"/>
<ERROR TYPE="Query/QueryProp"/>
<ERROR TYPE="Query/QueryCond"/>
<ERROR TYPE="Query/Grouping"/>
...
```

#### i 注記

次の章で提供されている表を使用して、ニーズに合わせてカスタマイズするために初期化ファイルで編集するエントリを確認します。

[機能とその変換ステータス \[26 ページ\]](#)

## 5.2.2 初期化ファイルの編集

デフォルトでは、ファイルは一部の機能 (<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED"> セクションにリストされているエラー) について [完全に変換] ステータスを生成し、その他の機能 (<ERRORLOGS TARGET="PARTLYCONVERTED"> セクションにリストされているもの) について [部分的に変換] ステータスを生成します。

特定の機能によって生成されるステータスを変更するには、その機能を当該セクションに移動します。たとえば、[部分的に変換] ステータスを生成する、ブロック内の計数でのフィルタ機能が不要な場合は、対応する要素を次のように FULLYCONVERTED セクションに移動します。

```
<LOGMANAGER>
<ERRORLOGS TARGET="FULLYCONVERTED">
<ERROR TYPE="Filter/BlockMeasureFilter"/>
</ERRORLOGS>
...
...
</LOGMANAGER>
```

#### i 注記

エラーが両方のセクションに含まれる場合は、[完全に変換]ステータスが生成されます。エラーがどちらのセクションにも含まれない場合は、[一部のみ変換]ステータスが生成されます。

## 5.3 機能とその変換ステータス

変換処理を起動する際、完全に変換されるドキュメントもあれば、一部のみ変換されるドキュメントもあります。次の表に、Web Intelligence™ に完全に変換できない Desktop Intelligence™ ドキュメントまたはレポートを示します。

特定の機能があると、レポート全体を変換できない場合があります。

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
データプロバイダ		
OLAP データプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
XML データプロバイダ	レポートは変換されません。	未変換
ユニバースデータプロバイダ (4.1 でユニバースが見つからない場合)	レポートは変換されます。変換ステータスまたは初期化ファイル設定が "完全に変換" である必要があります。	完全に変換
ユニバース接続 (4.1 でユニバースが見つからない場合)	レポートは変換されます。	完全に変換
クエリ		
計算オペランドを使用するフィルタ	レポートは変換されません。	未変換
クエリー結果オペランド (query on a query) を使用するフィルタ	レポートは変換されます。	完全に変換
ユーザー オブジェクト	レポートは変換されません。	未変換
自動更新設定	設定は失われます。	一部のみ変換
メジャーにフィルタをかけた分析範囲	分析範囲オブジェクトが結果オブジェクトになります。	一部のみ変換 <div> <b>i 注記</b>  メジャーオブジェクトに集計フィルタを適用し、分析の範囲を設定すると、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence レポート用に作成される SQL と Web Intelligence レポート用に生成される SQL は異なります。 </div>
定義に Designer の @Script 関数が含まれるオブジェクト	レポートは更新できません。	一部のみ変換
クエリーでの並べ替え	並べ替えは失われます。	完全に変換
[末尾の空白を取り除く] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
[データを受信しない] オプションセット	オプションは失われます。	完全に変換
ドキュメントのプロパティ		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
拡張表示設定は、SAP BusinessObjects Desktop Intelligence に存在しません。	拡張表示設定が有効化されます。	完全に変換
フィルタ		
複雑なグローバル フィルタまたはブロック フィルタ	フィルタは失われる場合があります。	Filter/ComplexGlobalFilter または Filter/ComplexBlockFilter
式のフィルタ	変数が作成され、フィルタはその変数に適用されます。	完全に変換
ブロック内のフィルタがメジャーに適用されます。	フィルタは失われます。	Filter/BlockMeasureFilter
セクション		
セクションヘッダ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションヘッダは表示または非表示になります。	完全に変換
セクションフッタ式の表示/非表示	式が True の場合、セクションフッタは表示または非表示になります。	完全に変換
折りたたみ/展開		
セクション	レポートは変換されます。	完全に変換
テーブル、クロスタブ、ブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
特殊なレポート コンテンツ		
Windows OLE オブジェクト (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
画像 (TIFF) (静的のみ)	GIF 形式に変換されます。	完全に変換
動的な場合の画像または OLE オブジェクト (たとえば、ランタイムに、または "Read as pictures" プロパティを使用して計算されるパス)	画像またはオブジェクトは失われます。	画像またはオブジェクトは削除されます。
ブロック		
Hide Block 式	レポートは変換されます。	完全に変換
クロスタブの横軸表示設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ ヘッダー設定	設定は失われます。	一部のみ変換
改ページ後の改ページ フッター設定	設定は失われます。	一部のみ変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
非表示オブジェクト ([ピボットをブロック] 設定)	オブジェクトの種類がメジャーの場合、このオブジェクトは完全に変換されます。	完全に変換
ブレーク		
複数のディメンションでブレーク  <div> <i>i</i> 注記            これは、単一のディメンションに複数のブレークを持つ 1 つのブロックではなく、複数のディメンションで定義されているブレークを表します。         </div>	レポートは変換されます。	完全に変換
ブロックではなくオブジェクトでブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ブレークの折りたたみ	レポートは変換されます。	完全に変換
値ベースのブレーク	レポートは変換されます。	完全に変換
ページ		
ページ設定オプション	レポートは変換されます。	完全に変換
関数		
ApplicationValue	RepFormula ("original_syntax") として表示されます	Formula/UnsupportedFunction
BlockNumber		
CurrentPage		
GetProfileNumber		
GetProfileString		
ハイパーリンク		
OLAPQueryDescription		
PageInSection		
CountAll	Web Intelligence 構文に変換されます。	一部のみ変換
日付形式		

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
すべての日付形式	マッピングに応じて等価の Web Intelligence 形式に変更されます。	完全に変換
セルの書式設定		
文字挿入	文字挿入は失われます。	完全に変換
Hide cell 式 (独立セル)	hide cell 式は失われ、セルは常に表示されます。	FormatCell/Appearance
罫線スタイル	マッピングに従って変換されます。	完全に変換
変数		
すべての変数	変数の説明は失われます。	完全に変換
変換できない別の変数を参照する変数	レポートは変換されません。	未変換
グループ化された変数	グループ化された変数は、Web Intelligence グループ化変数に変換されます。	完全に変換
並べ替え		
ブロックは、ブロックに含まれないオブジェクトで並べ替えられます。	レポートは変換されます。	完全に変換
チャート		
複数グループ	最初のグループのみ表示されます。	Graph または MultiGroupChart
3D 円チャート	Web Intelligence の 3D 円チャートにはプロットエリアがありません。	Graph または Pie3DChart
立体チャート	Web Intelligence の立体チャートにはプロットエリアがありません。	Graph または 3DChart
系列の色	系列とその色の元の関係は失われます。	完全に変換
回転、仰角、開始角度	これらの設定は、Web Intelligence では失われます。	完全に変換
プロットエリア	プロットエリアは、Web Intelligence の円チャートと立体チャートには存在しません。	完全に変換
壁面の色	Web Intelligence ではすべての壁面が同じ色になります。	完全に変換

SAP BusinessObjects Desktop Intelligence 機能	Web Intelligence レポートでの結果	変換ステータスまたは初期化ファイル設定
保存オプション		
書き込みパスワードまたは読み取りパスワード セット	レポートは変換されません。	未変換
フォント		
フォントのマッピング	カスタマイズ可能なルールに従って SAP BusinessObjects Desktop Intelligence と Web Intelligence 間でフォントがマッピングされます。	完全に変換

## 5.4 レポート変換ツール™での式の変換

Desktop Intelligence™ レポートで使用される次の式は、レポート変換ツール™で変換されるようになりました。

*MultiCube* (Web Intelligence™ レポートでは *ForceMerge* という名称に変更)

*DataProviderType*

製品

## 5.5 Desktop Intelligence レポートインスタンスから Web Intelligence インスタンスへの変換

Desktop Intelligence ドキュメントをスケジュールすると、このドキュメントのインスタンスはドキュメント履歴の一部になります。ドキュメントを Web Intelligence に変換すると同時に、そのドキュメントのインスタンスを Desktop Intelligence 形式から Web Intelligence に変換することがあります。

ドキュメントインスタンスを変換するには、次の手順を実行します。

1. レポート変換ツールを接続モードで起動します。
2. [レポート変換ツール] ウィンドウのファイルエクスプローラビュー (左側のペイン) で、変換する個々のレポートを選択し、[>>] ボタンを選択することで、選択したレポートを右側のペインに移動します。

### i 注記

右側のペインの [インスタンス] 列に、変換するために選択した Desktop Intelligence ドキュメントそれぞれで利用できるインスタンスの数が表示されます。

3. 右側のペインでドキュメントを選択して、[インスタンスの変換] を選択します。

### i 注記

[[インスタンスの変換](#)] ボタンは、選択した Desktop Intelligence ドキュメントに利用できるインスタンスがある場合にのみ有効になります。デフォルトでは、このボタンは無効です。

[ドキュメントインスタンスの変換] ウィンドウに、ドキュメントのすべてのインスタンスが、名前、オーナー、タイムスタンプの値とともに表示されます。

- 変換するインスタンスを選択します。すべてのインスタンスを変換する場合は、最後のテーブル列の上部にあるチェックボックスを使用して、すべてを選択します。  
変換結果に部分的に変換されたインスタンスを含める場合は、[[親が一部変換されている場合に変換を続行](#)] チェックボックスをオンにします。
- [OK] を選択します。[[レポート変換ツール](#)] のメインビューに戻ります。[[次へ](#)] を選択します。  
変換処理が開始され、変換が完了すると [[変換が完了しました](#)] ウィンドウが表示されます。ドキュメントとそのインスタンスの変換ステータスは、この画面で確認できます。

### i 注記

[[インスタンス](#)] 列では、変換されたドキュメントの行には [いいえ]、変換されたインスタンスには [はい] と表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

- [[閉じる](#)] を選択して、タスクを続行します。  
画面に、Desktop Intelligence (ソース) ドキュメントと Web Intelligence (ターゲット) ドキュメントの比較、および変換結果の監査データベースへの保存のためのオプションが表示されます。

### i 注記

レポート変換ツールでは、インスタンス名とソースインスタンスの作成時間を付加して、変換されたインスタンス (Web Intelligence 形式) の名前が生成されます。

- ソースとターゲットのドキュメントまたはインスタンスを比較する場合は、関連するオプションを選択するか、[[次へ](#)] を選択します。  
画面に、変換したレポートやインスタンスを BI 4.1 CMS の公開先に公開するためのオプションが表示されます (デフォルトでは、デフォルトのプロパティとともに、ターゲットに公開するようすべてのレポートが選択されています)。
- 要件に基づいて、次のいずれかを実行します。

ターゲット (Web Intelligence) のドキュメントまたはインスタンスの名前を変更するには、[ターゲット名] 列の値を右クリックして、[[名前の変更](#)] を選択し、新しい名前を指定します。

ドキュメントの公開先を変更するには、[ターゲットフォルダ] 列に表示されているフォルダを右クリックして、[[フォルダの変更...](#)] を選択します。

Web Intelligence ドキュメントとともに公開先に公開する、Desktop Intelligence 以外のソースドキュメント (.pdf, .xls, .rtf など) を指定するには、[[公開する .rep ではないインスタンスを選択](#)] を選択します。表示されるウィンドウで、公開する非 Desktop Intelligence インスタンスを選択して、[OK] を選択します。

### i 注記

変換したインスタンスを公開するターゲットフォルダを変更するオプションは、ドキュメントに対してのみ画面に表示されます。インスタンスには表示されません。これは、インスタンスはドキュメント履歴の一部として存在し、ドキュメントそのものと同じフォルダに置かれるからです。インスタンスには、ドキュメントそのものの以外の場所は設定できません。

- 画面の [[次へ >](#)] を選択します。



ターゲットドキュメントとそのインスタンスの [\[公開のステータス\]](#) (部分的に変換/完全に変換/未変換) が画面に表示されます。

**i 注記**

[\[インスタンス\]](#) というタイトルのテーブル列では、ドキュメントを含む行には [\[いいえ\]](#)、インスタンスを含む行には [\[はい\]](#) が表示されます。これによって、ドキュメントとそのインスタンスを区別できます。

10. [\[閉じる\]](#) を選択します。

変換が完了し、変換結果の概要が画面に表示されます。[\[終了\]](#) を選択してツールを終了するか、[\[初めに戻る\]](#) を選択 (他のドキュメントやインスタンスを変換する場合) します。

SAP BusinessObjects InfoView では、ターゲットフォルダ (手順 8 で指定) にアクセスして、変換されたドキュメントの [\[履歴\]](#) を開いて、変換されたインスタンスを表示できます。

## 6 Windows AD 認証用のレポート変換ツールの設定

サポートパッケージを使用してレポート変換ツールをアップグレードする場合、Windows AD 認証用に次のディレクトリの場所に初期化ファイル (RCT.ini) を作成する必要があります。

```
<Install_dir>\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\win32_x86\config
```

RCT.ini ファイルには、以下の内容が含まれている必要があります。

```
# For windows AD Configuration for RCT
-Djava.security.krb5.conf=C:\winnt\krb5.ini
-Djava.security.auth.login.config=C:\winnt\bscLogin.conf
```

# 法的側面に関する重要免責事項

この文書は、情報提供のみを目的としています。その内容は予告なしに変更される場合があります。又、SAP はその内容に間違いがないことの保証を行いません。SAP は、商品性又は特定目的との適合性に関する明示的又は暗示的保証も一切行いません。

## コードサンプル

この文書に含まれるソフトウェアコード及び / 又はコードライン / 文字列 (「コード」) はすべてサンプルとしてのみ提供されるものであり、本稼動システム環境で使用することが目的ではありません。「コード」は、特定のコードの構文及び表現規則を分かりやすく説明及び視覚化することのみを目的としています。SAP は、この文書に記載される「コード」の正確性及び完全性の保証を行いません。更に、SAP は、「コード」の使用により発生したエラー又は損害が SAP の故意又は重大な過失が原因で発生させたものでない限り、そのエラー又は損害に対して一切責任を負いません。

## アクセシビリティ

この SAP 文書に含まれる情報は、公開日現在のアクセシビリティ基準に関する SAP の最新の見解を表明するものであり、ソフトウェア製品のアクセシビリティ機能の確実な提供方法に関する拘束力のあるガイドラインとして意図されるものではありません。SAP は、この文書に関する一切の責任を明確に放棄するものであり、この文書により直接又は間接的に契約上の義務又は誓約が発生することは一切ありません。

## ジェンダーニュートラルな表現

SAP 文書では、可能な限りジェンダーニュートラルな表現を使用しています。文脈により、文書の読者は「あなた」と直接的な呼ばれ方をされたり、ジェンダーニュートラルな名詞 (例: 「販売員」又は「勤務日数」) で表現されます。ただし、男女両方を指すとき、三人称単数形の使用が避けられない又はジェンダーニュートラルな名詞が存在しない場合、SAP はその名詞又は代名詞の男性形を使用する権利を有します。これは、文書を分かりやすくするためです。

## インターネットハイパーリンク

SAP 文書にはインターネットへのハイパーリンクが含まれる場合があります。これらのハイパーリンクは、関連情報を見いだすヒントを提供することが目的です。SAP は、この関連情報の可用性や正確性又はこの情報が特定の目的に役立つことの保証を行いません。SAP は、関連情報の使用により発生した損害が、SAP の重大な過失又は意図的な違法行為が原因で発生したものでない限り、その損害に対して一切責任を負いません。リンクの分類に関しては、<http://help.sap.com/disclaimer> を参照してください。

[www.sap.com/contactsap](http://www.sap.com/contactsap)

© 2014 SAP SE or an SAP affiliate company. All rights reserved.

本書のいかなる部分も、SAP SE 又は SAP の関連会社の明示的な許可なくして、いかなる形式でも、いかなる目的にも複製又は伝送することはできません。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP SE 及びその頒布業者によって販売される一部のソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダーの専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。

これらの文書は、いかなる種類の表明又は保証もなしで、情報提供のみを目的として、SAP SE 又はその関連会社によって提供され、SAP 又はその関連会社は、これら文書に関する誤記脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAP 又はその関連会社の製品及びサービスに対する唯一の保証は、当該製品及びサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

本書に記載される SAP 及びその他の SAP の製品やサービス、並びにそれらの個々のロゴは、ドイツ及びその他の国における SAP SE (又は SAP の関連会社) の商標若しくは登録商標です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。

商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx> をご覧ください。